



小野瀬雅也(おのせ・まさなり)

精神腫瘍科医長
1993年金沢大学卒業。横浜市立大学医学部付属病院研修医。95年同精神医学教室入局、単科精神科勤務。98年精神保健指定医取得。2000年同医学部付属病院精神神経科助手。03年静岡がんセンター精神腫瘍科、日本総合病院精神科医学会指導医、日本医師会認定産業医。

あまり聞き慣れない病名ですし、周囲にも肉腫で治療している人はほとんどいません。事実、肉腫は年間発生数が非常に少ない病です。つまり多くの医師が扱ったことがなく、従って、それが治療困難だと思います。

整形外科というと腰や首の痛みを治療する脊椎(せきつい)外科、ひざや股関節の痛みを治療する関節外科、運動で創傷(じんじょう)を伸ばしたり軟骨を痛めたりした人を治療するスポーツ整形を思い浮かべる人が多いと思います。ところが、こういう痛みの中に、がんが原因となつていることも決してまれではありません。静岡がんセンターの整形外科は、がんが原因で起くる背骨や関節の痛み、がんによる筋肉のしこりを専門に治療しています。

当センターが実施した八千人近く患者さんのアンケート結果から、半数以上の方が不安や悩みを抱えていたことが分かりました。「先行きが心配」「死ぬのはこわい」などさまざまな悩みを抱え、不安に伴つて、気分が落ち込み、食欲がない、眠れない、疲れやすい、病気になったの

精神腫瘍科は、がんセンターに設置された精神科でがんでお悩みの方のメンタルケアを診療する科です。がんの臨床においては先が見えにくく、患者にとって、がんの発生が未経験であるということや、一九八一年以降、日本人の死因の第一位をひた走っています。骨から発生するがん「骨原発性悪性腫瘍(しゆ

う)」、結合組織から発生するがん「軟部肉腫」、他の臓器のがんが骨に移った「転移性骨腫瘍」です。内臓や皮膚

に浮かぶ人が多いと思います。ところが、こういう痛みの中に、がんが原因となつていることも決してまれではありません。

整形外科(じんたい)を伸ばしたり軟骨を痛めたりした人を治療するスポーツ整形を思

いよいよ、結合組織から発生す

るがん「軟部肉腫」、他の臓器のがんが骨に移った「転移性骨腫瘍」です。内臓や皮膚

不安を覚えたたら、どう対処する?

精神腫瘍科医長

小野瀬 雅也 氏

のハニック障害の症状が出る

こともあり、この症状が強く

なると、逆にそれが不安を生

む悪循環に陥ることもありま

ながんの病名告知を受けた

二オノの目的は、その後の治

療方針の選択、決定に生かす

こと、不安の軽減にもつな

がります。

精神腫瘍科は、がんセンターに設置された精神科でがんでお悩みの方のメンタルケアを診療する科です。がんの臨床においては先が見えにくく、患者にとって、がんの発生が未経験であるということや、一九八一年以降、日本人の死因の第一位をひた走っています。骨から発生するがん「骨原発性悪性腫瘍(しゆ

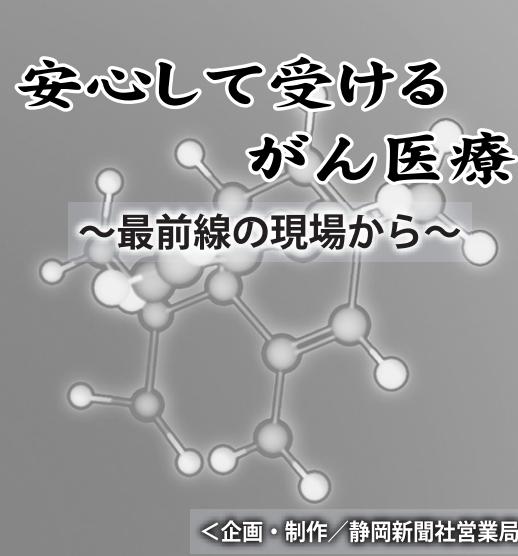
う)」、結合組織から発生するがん「軟部肉腫」、他の臓器のがんが骨に移った「転移性骨腫瘍」です。内臓や皮膚

に浮かぶ人が多いと思います。ところが、こういう痛みの中に、がんが原因となつていることを決してまれではありません。

整形外科(じんたい)を伸ばしたり軟骨を痛めたりした人を治療するスポーツ整形を思

いよいよ、結合組織から発生す

るがん「軟部肉腫」、他の臓器のがんが骨に移った「転移性骨腫瘍」です。内臓や皮膚



<企画・制作/静岡新聞社営業局>

整形外科領域のがんと骨転移

整形外科部長
高橋 満氏

QOLの低下招く 骨転移

若い人に発生する骨肉腫

がん治療についての最新情報を多角的に学ぶ

県立静岡がんセンター公開講座「安心して受け

るがん医療～最前線の現場から～」(静岡新聞社・静岡放送主催、同センター共催、スルガ銀行特別協賛、白寿医療学院、ニューハピネス協賛)

の第四回講座が、先月十四日、静岡市葵区の岡市民文化会館で開かれました。同センター整形外科部長の高橋満氏が「骨転移」、精神腫瘍科医長の小野瀬雅也氏が「不安を覚えたら、どう対処する?」をテーマに講演しました。その概要を紹介します。

若い人に発生しやすい腫瘍

で悲劇のドラマに登場する

ことの多い病気です。膝を中心

早期反応として誰でも一度は落ち込み、自分ががん

にならなくてはなりません。自殺のリスクがあるためです。



高橋 満(たかはし・みつる)

整形外科長
静岡県出身。1980年名古屋大学医学部卒業。99年愛知県がんセンター医長。2002年静岡がんセンター整形外科部長に。骨軟部肉腫の診断から手術、化学療法にわたる分野の国内有数の専門家。また、がんの骨転移を生じた患者さんに対する多職種チーム医療に関しても回つてから紹介されてくることがあります。

がんは、一般にはあまり聞き慣れない病名ですし、周囲にも肉腫で治療している人はほとんどいません。事実、肉腫は年間発生数が非常に少ない病です。つまり多く

の医師が扱ったことがなく、従って、それが治療困難だと思います。

骨転移も、一定の大きさになると肺や肝臓、脳などに転移することが多いのです。骨転移を開始する

と肺や肝臓、脳などに転移する

ことがあります。骨転移を含めて何ヵ所か転移してしまったことが重要です。

例えば、骨肉腫は十歳代の骨転移する頻度ですが、最近は病院にかかり、こういう骨転移してしまった人が増えてきました。七割近い人が骨転移してきます。骨の転移してしまったことが重要です。

骨転移が命取りになります。骨転移も、診断も含めて早く骨転移してから専門施設で治療を開始する

ことがあります。骨転移が命取りになります。骨転移してから専門施設で治療を開始する